

2 コラム RAMPWAY  
泉 麻人

特集 都市内道路トンネル

5 山手トンネルの革新  
一般財団法人 国土技術研究センター 技術顧問  
今田 徹

9 安全運転の生態心理学  
早稲田大学 人間科学学術院 准教授  
三嶋博之

13 データ物語  
こんなに使われています  
首都高のトンネル!

14 コラム オン・ザ・ロード  
三木 卓

16 首都高HEADLINE

18 business essay  
引き算のレシピ  
京都大学大学院 エネルギー科学研究科 准教授  
袴田昌高

20 つくる人まもる人  
首都高速道路株式会社  
松田 満

22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito  
contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited

illustration by Takao Nakagawa



column | RAMPWAY 20

首都高名所案内  
目黒、自然  
教育園の森を歩く

コラムニスト  
泉 麻人

首都高の目黒の出入口の傍らに広大な緑が広がっている。国立科学博物館の付属施設、自然教育園の森だ。1月の割合と暖かい日、ゆっくりと散策してみることにした。

目黒通り側に玄関口がある。310円の入園券を買って、ピンク色の小さなリボンを付けて園内に入ると、もうすぐ先から深い森の径が奥へ奥へと延びている。シイやエノキのたもとに繁

る低木にも一つ一つマニアックな名札が掲げられている。ヒサカキ、ガマズミ、イヌシヨウマ……小さな赤い実のような花をつけた植物はセンリョウというのだ。ここがただの公園ではなく「教育園」であることがよくわかる。林間の所々に小高い土山が見えるが、これは室町時代、この敷地に屋敷を構えていた「白金長者」と呼ばれた豪族が防備目的で築いた土塁の名残りらしい

い。その後の江戸時代(寛文年間)には松平讃岐守頼重の下屋敷となり、さらに明治時代は海軍や陸軍の火薬庫、宮内省の御料地などの歴史を経て、戦後こういう教育目的の緑地として整備された。

なるほど、いくつかの池の畔は野鳥愛好派カメラマンのメッカなのだ。そんな雑談を耳にして、ちよっと先ですれ違った本格カメラのオジサンに、あいさつがてら「カワセミ、撮られるんですか?」と問いかけたら、「いや、いろいろ」若干ムツとした顔つきで返された。彼は、カワセミ狙いのミーハーとは違う……ってことを主張したかったのかもしれない。

整備といっても、ここは本当に草深い森林の雰囲気は保たれている。下草も刈らず、落葉もあえてそのまま路面に積もらせたままの区間がある。しかし、里山の雑木林のような環境とはまったくちよっと違う。コナラの林なども自然に任せて、繁りつ放しにしているのだ、巨木になった後は枯れて、やがてシイやカシの常緑樹林へと変貌していく。つまり、そういう樹林相の遷移を観察するのも一つの目的なのだ(尤も、きちんと手入れしている植物園などのスペースもある)。

管理棟の売店で買ったガイドブックをめくると、ミヤマカラスアゲハにチョウトンボ……虫好きの僕には思わずグツとくるレアな昆虫が紹介されている。春や夏にもう一度じっくり散策してみたい。

園内の径は上ったり下ったり、案外と起伏があつて、多摩や狭山の丘陵歩きをしているような気分になるが、おそらく豪族の庭園期に人工的に築かれた山や堀池が地形の下敷きになっているのだろう。

とところで、本来の目黒の地は駅の西側。西口の目黒通りから枝分かれする行人坂を下っていくと、川際に目黒雅叙園があり、遠方に目黒不動尊の森が垣間見える。ちよっとした山寺風情のある境内を歩いて、下町じみた門前商店街へ流れるというのが僕の定番の散歩コース。

歩いていると目につくのは、長い筒状の一眼レフカメラをぶら下げた中高年男性。「あっちの池にカワセミ来ますよ」なんて雑談が聞こえてくる。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『大東京23区散歩』(講談社)がある。